

佐渡観光の強み・弱み

	強み	弱み
観光振興の動機(経済・社会面)	・交流人口に占める観光客の割合は大きく、「賑わい」創出のため観光は重要である。	・他地域に比べ、現状、産業全体に占める観光のウエイトは低く、産業振興(雇用機会創出)面からの動機は薄い。
知名度、来訪経験		・知名度が高い割りに、来島者が少ない。
PR、情報発信	・(PRしなくても)相当の知名度がある。	・基本イメージが一般に浸透していない。 (「流人の島」程度にしか思っていない人も多い) ・県外等へのPR(観光資源ほか)が、戦略的でなく、量と質が不十分である。 ・(必要とされる)島内情報の提供が不足している。(交通、観光資源、食ほか)
観光資源	・独特な自然風土や文化歴史を持ち、専門家から、「自然」「文化歴史」の評価が高い。 (「文化歴史タイプ」の観光は、近年好調) ・「自然」については、一般評価が高い。 ・トキ、佐渡金山、アース・セレブレーション、能・鬼太鼓等、世界レベルの地域資源がある。	・「文化歴史」については、内容が十分理解されていないため、一般評価は案外低い。 ・地域資源を十分戦略的に活用していない。
食	・優れた食材(米、魚ほか)がある。 ・来訪前は、食に対する期待度が高い。 ・佐渡そば、おけさ柿のシャーベット等、評価の高い食べ物もある。	・地元の新鮮な食材が提供されず、失望する観光客も多い。 (一部の観光客は、満足度も高い) ・佐渡を代表する「特定の」食材・料理のブランドが確立されていない。 ・全国的に知名度の高い「食」のブランドを持つ地域には、評価が及ばない。
土産物	・他地域に比べ、土産物の購入単価は相当高い。 cf.単価の高い世代(60代～、50代)が多い	・佐渡の食材等を使った、佐渡固有の土産物が少ない。
観光地としての集積度	・全国的にみて、主要観光地(宿泊観光)のひとつである。	・他地域の著名な観光地に比べると、宿泊観光客数、県内観光シェア等、集積が必ずしも高くない。
広域観光	・県内県外との広域観光が、見受けられる。	・島内での広域観光は、不活発である。 ・広域観光(県内外)の取組みが、遅れている。
観光客の特徴		
出発地	・県内・関東等からの観光客が多い。	・近県からの観光客が少ない。
年齢階級	・中高年(50代以上)に人気がある。	・子育て世代(30・40代)に人気がない。 ・全国シェアが低下傾向にある。 (特に40代・50代、団塊の世代)
同行者形態	・夫婦旅行(50代～)、ひとり旅(40・50代)が多い。	・家族旅行が少ない。
リピーター、熱烈ファン		・満足度が低く、リピーター、特に熱烈ファン(3回以上来島)が少ない。 (特に県外客、60代～や40代・20才未満)
パッケージ・ツアー	・パッケージ・ツアー客が多い。	・パッケージ・ツアー以外の客が少ない。
季節の需要変動		・オン・シーズンとオフ・シーズンの来島者の差が激しい。
観光客への対応、観光体制	・佐渡島民の素朴な人柄に感銘を受ける観光客が多い。 ・一島一市を実現し、観光組織も佐渡観光協会へ一本化の予定(2006.4)である。	・サービス精神や責任感に欠ける対応振りに観光客が失望するケースがしばしばある。 ・島内では、地区や業種が異なると、関係者の横のつながりが希薄がちである。 ・観光に対する一般住民の関心は、総じて希薄である。
交通		
全般		・来島者は、交通費(渡航費、駐車場代ほか)が高い印象を受ける。
出発地 佐渡	・関東から佐渡へのアクセスは比較的容易である。	・冬場等、気象条件による欠航がある。
島内		・車を使わないと島内移動が困難である。 (注)シャトルバス運行等、改善の動き有。 ・島内でのアクセス(船・バス、バス乗継)が悪い。アクセス情報も不足している。 ・道路案内やパンフレットが未整備である。
観光ルート		
観光コース	・効率的に観光地を回れるパッケージ・ツアーが普及している。	・パッケージ・ツアー等で訪れる地域資源と、リピーター確保のために重要な地域資源は必ずしも一致しない。 ・年齢等による嗜好の違いに配慮した多様な観光ルートが整備されていない。 ・歩いて楽しめる観光ルートが未整備である。
ボランティアガイド	・一部地域で、ボランティアガイドが導入されている。	・ボランティアガイドが十分定着していない。
観光関連施設	・ひと通りの施設がある。	・総じて、観光を取り巻く環境変化に対応できていない。(ソフト面も含む) ・老朽化が目立つ施設がある。
(参考) 宿泊者数、宿泊単価の動向		・宿泊者数、宿泊単価とも低下傾向にある。